

# 積み重ね つみ重ねても またつみかさね

令和4年9月14日 No. 25 文責：佐野紳二

## 学力の話・おまけ②

最終回の今日も、ネットで見つけた話を紹介させていただきます。

今回紹介するのは、検索エンジン msn の“ライフスタイル”に掲載されていた、「子どもの『こんな勉強しても将来使わないじゃん』に対する神回答はこれ!」という記事です。子どもに「どうして勉強なんかしなきゃならないの?」と聞かれたときに上手く答えるのは、意外と難しいものです。そして、その答えは今回ずっと書いてきた「学力」や「学ぶことの本質・意義」に関わったりします。

今回も記事は一部を抜粋し、読みやすくなるように若干の修正を加えてあります。

「なんでこんな勉強しないといけないの?」「将来絶対に使わないのに…」学年が上がるにつれて、親や教師にそんな不満をぶつけてくる子がいると思います。今回は、そんなときのさまざまな回答例を紹介します。お子さんの性格やみなさんの価値観に合うものがあればぜひ使ってみてください。

### 回答例① **模範回答系**

まずは標準的な説明をしてみてもよいかもしれません。

「今やってる勉強は、家やお城の土台みたいなもので、ただの石のかたまりに見えるかもしれないけど、将来その上にそれぞれのやりたいことを積み上げると、お店や野球場や病院、好きな仕事場になるんだよ。もし土台がぐらぐらだと、なりたい仕事になれないかも。」



と、基礎固めの時期の大切さを教えたり、

「大きくなったらどんな仕事をしたいかもう決まってる?仕事によっては、そのための学校を卒業しないとできない仕事があるんだ。たくさんの種類の仕事が君を待ってるのに、今から選択肢を減らしちゃったせいで選べなかったら残念だよ。」

「大昔の子どもたちは学校なんてなかったけど、そのかわり、親の職業をそのまま引き継がないといけなかったんだ。今は違うよね?好きなことを勉強して好きな仕事を選べるよ。どっちがいい?」

と、将来やりたい仕事が決まるまでは選択肢を広く持つておこうという考え方を伝えたりしてみましょう。

### 回答例② **メリット提示系**

「勉強がこんなときに役に立つんだよ」とメリットを示してみてもいい。



「勉強の内容は使わないかもしれないけど、勉強のやり方も将来役に立つよ。例えば英語をマスターできた人は、そのときの手順を使って、フランス語や中国語、プログラミング言語など、別の言語を覚えるのがずっと早くなるんだって。」

と、勉強のやり方が応用できることを教えたり、

「有名な画家のゴッホ、知ってるよね？以前、ゴッホを知らない…というか覚える気  
のなかった人が、亡くなったお父さんが持っていた高価な絵を、”ゴッホ？知らないや”と捨ててしまったんだって。知ってたら、売って大金が手に入ったかもしれないのね。」



と、逆に勉強しないと損をするという例え話をしたりするも有効かもしれません。

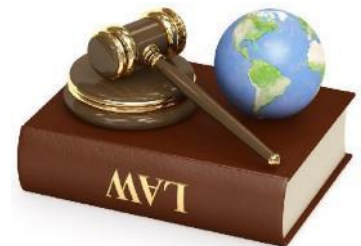
### 回答例③ 「勉強とは」見直し系

「なんでこんな将来使わないようなことを勉強しないといけないの？スマホで調べたら分かるじゃん…」  
という子どもの問いをよくよく考えてみると、「そもそも勉強とは？」という疑問がわいてくるかもしれません。

「世の中、正解があるものとなないものがあるよね。正解があるものはたしかに調べれば分かるかもしれない。でも、大人になって、例えば1000万円の貯金で自分のお店を開くかどうか迷った時には、スマホでは正解なんて分からない。だから、お金のことや商品のこと、法律のこと、お客さんの心理なんかをたくさん勉強しないといけないよね。今学校でやっているのはその始まりの部分なんだよ。」

と、用意された正答を導くことではなく、考え方や視点の持ち方が大切だということを伝えたり、

「”勉強”って本来はゴールや目的にたどりつくための手段なんだよね。あなたたちがやるべきは、知らなかったことを教わったり調べたり考えたりして喜べる”学習”のほうだよ。大人になっても教科書の内容をどんどん詳しくつきつめていくのは”学問”や”研究”で、歴史や文化などをきちんと知って会話や生活の中で使いこなすのは”教養”だね」



と、勉強と学習・学問・教養の違いについて子どもと一緒に見直してみたりするのも良いかもしれません。

さて、いかがでしょうか？

ちなみに、私が教師という立場で子どもたちに「なぜ勉強しなきゃいけないの？」と聞かれたら、おそらく回答例①のように答えると思います。それは、私の職業が「教員」であり、その立場から「勉強」というものをみると、回答例①が最もしっくりくるからだと思います。

学校で子どもたちがやっているような「勉強」がずっと必要なのは、それこそ我々のような「教師」になった人など、一部の人に限られてしまうかもしれませんが、どんな職業に就いても、あるいは職に就かずに生きていく道を選んだとしても、「学ぶ」ことをしないという人はおそらくいないのではないのでしょうか。それは、「勉強する」とか「学ぶ」ということが、その人の人生を豊かにすることにつながっているからだと思います。

今回、全国学調の話をつきかけに、「学力」とか「勉強」の話を長々とさせていただきましたが、こういった話が、どこかで子どもたちの“しあわせ”につながるといいなあ…なんて思っています。



次号では、目前に迫った運動会の「見どころ」を紹介する予定です。